



2017年度 日本臨床ゲシュタルト療法学会

本学会は8回目を迎えますが、ゲシュタルト療法が心理療法であることを踏まえ、専門性を尊重し、介入力の向上に力を注いできました。おかげをもちまして多くの専門家が育ち相互研鑽の機会を持つに到りました。ゲシュタルト療法は非分析的で自己の成長に最も重要である「気づき」をキーワードに、クライアントとの関わりにおいても自らの「気づき」を促進する援助をいたします。心理臨床やカウンセリングの介入の在り方や課題を共有したい方、教育、看護、育児等の問題にご関心のある方（会員・非会員・学生）のご参加を歓迎いたします。ただし事前のお申し込みが必要です。なお、条件がそろえば、臨床心理士の継続研修ポイントを申請する予定です。どうぞ奮ってお申し込みください。

日本臨床ゲシュタルト療法学会第8回大会事務局

基調講演 11:00～12:30

「怒りの意味と効用—“job anger”をふまえて—」

倉戸ヨシヤ（大阪市立大学名誉教授）

要旨：怒りは、どちらかといえば、マイナス・イメージの方が強い。それは個人に帰属する資質や性格とされ、その場の雰囲気や壊すからであろう。それでは怒りにはプラスはないのか。もし怒りという感情がなかったならば、もしこの世に怒る人がいなかったら、この社会はどうなるであろうか。平和な未来がくるであろうか。それとも、権力や財力を傘に支配し搾取に走る人が増えるのであろうか。怒りは、人間の性（さが）にブレーキをかけ軌道修正する回路を、さらには閉塞感に穴を開け、進歩、発展を促す機能を持っているように思われる。そのあたりを、前回までの報告と併せて、演者の経験則や心理臨床の経験から述べる。

「個人研究発表 13:30～15:55

1. 「高野山ワークショップでの不思議な体験—自分とのコンタクト—」

堀口節子（四条畷学園 臨床心理研究所）

要旨：ワークショップで「両親への心残り」をワークした時、思っても見なかった感情が体の中から湧き上がり、しばらく続いていた。このワークでの体験をふり返り検討したい。

2. 「『私は・・・』と語りだすとき—バウンダリー機能の視点から—」

遠藤美穂（ライフバランスラボ）

要旨：対話を重ねていく中で、クライアントが「私は・・・」と第一人称をつけて語りだす瞬間から、プロセスが展開されていくことを見てきています。「私」をつけ対話することから導き出されるクライアントの実感や自己への気づきといった実践例を、バウンダリー機能の視点から検討し報告します。

3. エンプティ・チェア技法の実存的意味について— ケースからの考察

倉戸由紀子（追手門学院大学名誉教授）

要旨：エンプティ・チェア技法の機能についての考察にあたるもので、今回はワークをしてカタルシスがなされ、その後どのようなカセキシスがみられるのかを考察したい。

【フォーラム】 16:05～17:35

心理職や対人援助職者としての力量を高めるために、若手（大久保智紗：平成帝京大学）、中堅（金子周平：九州大学）、ベテラン（中西龍一：京都橘大学）の三者から、教育や訓練の立場あるいは逆に教育や訓練を受けた経験からどのような工夫や苦勞をなさっているかについて話題提供をいただき、全員でディスカッションを深めたいと思います。

【総会】 17:35～17:50

日本臨床ゲシュタルト療法学会第8回大会

2017年12月16日(土) 11:00~17:50

会場：大阪クリスチャンセンター

(大阪女学院大学に隣接)

大会参加費：学会員 5,000円 非学会員 7,000円 院生・学生 3,000円

(参加費は当日受付でお支払い下さい)

参加には、事前にお申込が必要です(申込書12月9日必着)。
臨床心理士の方は継続研修ポイントを申請する予定です。



[受付] 10:30~

[基調講演] 11:00~12:30

「怒りの意味と効用—“job anger”を踏まえて—

倉戸 ヨシヤ(大阪市立大学名誉教授)

[個人研究発表] 13:30~15:55

[発表1] 高野山ワークショップでの不思議な体験—自分とのコンタクト—

堀口節子(四条暁学園 臨床心理研究所)

[発表2] 『私は・・・』と語りだすとき—バウンダリー機能の視点から—

遠藤美穂(ライフバランスラボ)

[発表3] エンプティ・チェア技法の実存的意味について—ケースからの考察

倉戸由紀子(追手門学院大学名誉教授)

[フォーラム] 16:05~17:35

テーマ:「対人援助職としての力量を高める:指導者および被指導者として」

話題提供:大久保智紗(帝京平成大学), 金子周平(九州大学), 中西龍一(京都橘大学)

コーディネーター:宮井研治(京都橘大学)

[総会]

17:35~17:50

《申し込みおよび問い合わせ先》

2017年12月9日(土)までに、同封の「申込書」に必要事項を記入の上、下記住所まで郵便でお送りいただくか(当日消印有効)、ホームページでダウンロードした「申込書」をメールに添付して、あるいは「申込書」の必要事項を直接メールに書き込んで、下記メールアドレス宛にお送り下さい。

郵便による申込:〒607-8175 京都市山科区大宅山田町34 京都橘大学 健康科学部

中西龍一研究室気付 日本臨床ゲシュタルト療法学会 事務局

ホームページ:<http://www.clinicalgestalt.gr.jp>

メールによる申込・問合せ先:E-mail: clinical.gestalt.ws@outlook.jp